



# 音楽は「楽しい音」と書きます

日本廃品打楽器協会会長 山口 とも

先日、福岡児童館で「ともとのガラクタ音楽会」をやらせていただきました。

子ども達も手作り楽器が大好き、蒲鉾の板にヘアピンが5本金属の板でくくりつけられた親指ピアノ（カリンバ）を試奏、思いがけない良い音、音程感も素晴らしかった。

もちろん、ピアノでチューニングされた音程感ではないとすぐ分かった。5本のヘアピンから奏でられる音は独自の世界観だ、これでしか出せない。

アフリカには生活ゴミ、手近にある物から色々な楽器が産み出されている。そしてそれも同じように独自の音程感の楽器達だ。この様なものからその国の音楽文化が産まれて来るのではないだろうか。

作った本人の偶然か、調律されていない好みの音程感が産み出す音楽。そのような物から歌は生まれ、ダンスが生まれ人が集まり、言葉ではないコミュニケーションが産まれて来る。理由は無い！ただ楽しいのだ。

音楽は楽しい音と書きます。楽器は楽しい器、それを楽しむのが人間。

この人間界にはなくてはならない音、音ははかない、消えてゆくもの、でもそれを聞いた人間の心には残ります。

空気がある、この惑星だから音が存在する。この地球に生命を宿らせている我々にしかできない楽しみの一つ、それが音楽です。

僕が「楽しんで」取り組めることは、『身近にある不要品を利用し、それが持っている音を引き出す』ということ。この地球上の全ての物には音が

あります。

普段は、楽器として使われていない物たちの音は『雑音ざつおん』と思われていることが多いです。しかし、僕のガラクタ音楽会では、それらを『楽器』として加工し、『新たな音』として誕生するのを観客の皆さんと一緒に発見し、音に対する意識を高めていければ、と思っています。壊して再利用するのではなく、その物をいかに楽器にするか。発想次第でどんなモノにでも変身してくれます。

これが楽器にかかわらず、皆さんが他の利用方法を発見することに繋がっていけば、こんなにうれしいことはありません。

自分にとっての心地いい音、普段の生活の中でそんな音を探す余裕。その余裕が遊び心なのではないでしょうか。音だけではなく、臭い、景色、味、体感すべてが刻々と自分の目の前を通り過ぎてゆきます。それをいかに自分に取り込んでゆか、自己表現をする上で一番大切なことだと思えます。

人間としての感性、直感をいかに研ぎ澄ますか、時間はあっという間に過ぎてゆきます。一瞬一瞬を大切にしたいと思っています。

